

経営規模の拡大に対応したすいか新技術「渦巻き整枝法」

山形県農業総合研究センター園芸試験場

研究のねらい

今後のすいかの経営規模拡大に対応するため、主産地である北村山地域で普及している整枝法のうち、トンネル移動栽培（つる引き整枝）の収量性・果実品質と、裾換気放任栽培（通称：密閉栽培）の省力性を合わせ持つ、新整枝技術「渦巻き整枝法」を開発する。

研究の成果

- ① 渦巻き整枝法は、親づるを摘心後発生する側枝（子づる、孫づる）を、緩やかな渦巻き状に誘引する整枝法である（図1、2）。
- ② 渦巻き整枝法は、従来のトンネル移動栽培と比較して一果重はやや小さくなるが、10a 当たり商品果収量は約2割増加し、糖度も同等である（図3、表1）。
- ③ 渦巻き整枝法は、従来のトンネル移動栽培と比較して、労働時間を2割程度削減できるため、8時間当たり所得は、約6割増の3万6千円が期待できる（図4）。

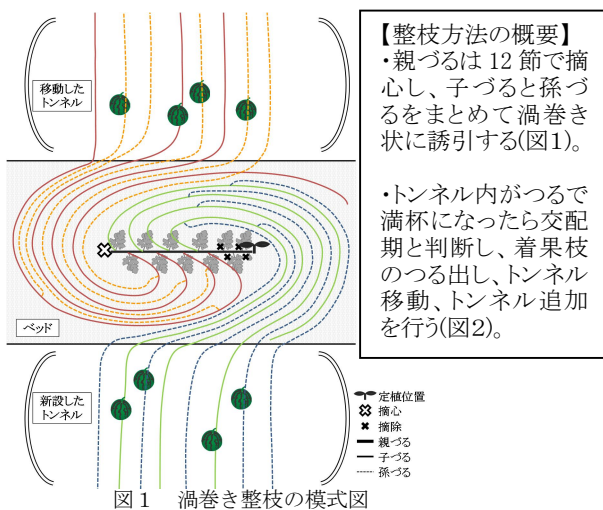


図2 交配直前の状況（赤印：試験区ラベル）

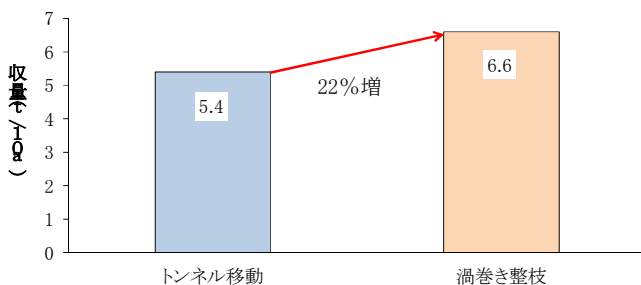


図3 10a 当たり商品収量 (R1 尾花沢現地)

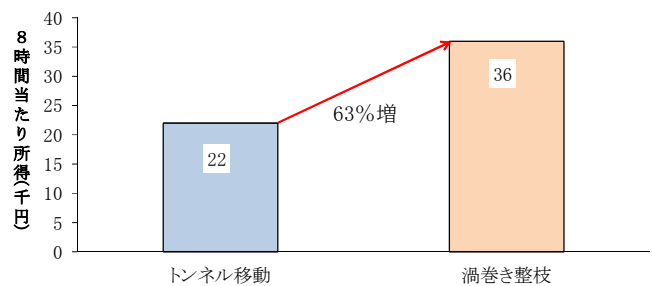


図4 8時間当たり所得 (R1 尾花沢現地試験結果から試算した)

表1 整枝法別の等級別比率 (R1 尾花沢市現地)

	等級別比率 (%)			収穫果実数 (個/10a)	商品収量 (t/10a)	1果重 (kg)	糖度 ¹⁾ (Brix)
	A品	B品	C品				
トンネル移動	77.6	14.7	7.8	567	5.4	8.4	12.7
渦巻き整枝	71.6	18.6	9.8	889	6.6	6.9	12.6

¹⁾ 糖度は中心部と種子部の平均値を記載。

*等級別比率、収穫果実数、収量は選果場への出荷実績から試算。

1果重、糖度は15果のサンプル調査による実測値。

問い合わせ先 : 野菜花き部 TEL:0237-84-4125